



審査員の皆さん。左から時計回りで、山路さん、北村さん、向井さん、山下さん、上原さん、三木さん

14年ぶりに 機関紙賞 指金

2018年度 東京土建機関紙コンクール

中野

記事をフラッシュ的に出す

A4判になり初の受賞

東京土建は1月26日に、けんせつプラザ東京で「2018年度機関紙コンクール」審査会を行いました。厳正な審査の結果、見事に受賞したのは以下のとおりです。審査員は北村肇日本機関紙協会理事長、山路満全国商工新聞編集長、山下正人全建総連教宣部長、向井光也年金者しんぶん編集長（前「けんせつ」編集長）、上原誠東京土建教育宣伝部長、三木勉「けんせつ」編集長、以上6人の皆さんです。（分会紙等の受賞に関しては「けんせつ」2265号で発表済み）

2月10日には、同会場で表彰式を行ない、新聞づくりにしても交流しました。



機関紙賞に輝き喜びを語る
周佐教宣部長（中野）

機関紙コンクール・機関紙賞は中野「指金」が受賞しました。「指金」は2004年度に機関紙賞を受賞して以来であるとともに、A4判の機関紙になってから初めての返り咲きとなりました。A4判の紙面に当初は違和感があったが、見出しもあまりパツとせず、記事も少なかったが、かなり進化している。ものが読まれない時代にフラッシュ的に記事を出していくのがこれからの行き方かもしれない。いし、記事のレポートもそれなりにある。全体を通して一番上手い、毎年上手くなっていくのではないかと評価されました。機関紙賞の選考には「指金」の他に4紙が候補に上がり、

最後に残った足立支部「ちから」に競り勝ちました。特選は足立「ちから」、目黒「けんちく」、渋谷「けんちく」、杉並「すぎなみ」、町田「建設まちだ」が選ばれた。

機関紙賞

「指金」中野支部

特選

「ちから」足立支部

「けんちく」目黒支部

「けんちく」渋谷支部

「すぎなみ」杉並支部

「建設まちだ」町田支部

入選

「おれたち」荒川支部

「けんせつ北部」板橋支部

「けんちく」世田谷支部

「しんじゅく」新宿支部

「鉾杉」西多摩支部

記事賞（支部機関紙より）

*以下、敬称略

ました。「ちから」は他の支部機関紙が国民的課題を取り上げていないところが多いなかで、いくつかのテーマを取り上げていたこと、企画がとも豊かであったことが評価されました。

各支部の力が拮抗して

「建設まちだ」は非常に読みやすく、新年号では、事業承継について、女性をテーマにしており、じっくり読ませる記事になっている。どういふ思いで仕事をしているのかを腰を落ちつけて取材している感じがすると評価されました。また一つひとつの記事がコンパクトで読み切りサイズとなっていて、写真が必ず記

載っていました。今回のコンクールでは各支部の力が拮抗している印象が持たれました。

（渋谷）

「戦争する国にノー」三塚茂明（町田）

「カフェで語り合う」早坂順子（西東京）

忘れえぬこと（「けんせつ」で掲載）

「夫との突然の別れ」大嶋清子（豊島）

「父の背を見て絶句」出井章史（港）

「取引先の心遣い」鎌田正一（西多摩）

「手伝い断わり映画に」山田光政（八王子）

「仲間2人が溺死」安立孝章

（小平東村山）

「狭窄症でどん底に」白石優

写真賞

森和夫（足立）

遠藤喜世志（江戸川）

野本陽子（豊島）

奈良憲成（練馬）

村松澄（杉並）

田中邦義（小金井国分寺）

奥田八志（小平東村山）

イラスト賞

詰将棋の解答
▲一銀△同玉▲一三歩△2一玉▲5一竜まで5手詰。

入会してすぐ
「いなほ」担当



梅津さん

新しい仲間を
取り上げる



野崎さん

【多摩・稲城・主婦・梅津恵美さん】主婦の会の新聞、「いなほ」が去年と連続して賞をいただき、とてもうれしです。主婦の会に入ってから、右も左もわからないながら、自分でも一所懸命勉強しながら何とかやってきました。受賞の喜びがある一方で、少しプレッシャーも感じています。引き続きがんばりたいと思います。



遠藤さん

大マスコミは
権力に屈服



高山さん

拾い上げて
発信する



三角さん

機関紙賞を
ねらいたい

【渋谷・看板・加藤行夫さん】この何年か特選、入選で、機関紙賞をねらっていたのですが、支部機関紙「けんちく」は特選でした。今回、中野の「指金」が「すぎなみ」の連覇を止めて、機関紙賞になったことは希望がもてるのではないかと考えています。西部ブロック6支部の機関紙がすべて受賞しました。



加藤さん

【西多摩・とび・高山勝宏さん】今朝の我が家の気温はマイナス5度、1時間半かけてここ（本部）にきました。教宣担当書記が替わり、経験が浅い中で作った支部機関紙「鉾杉」に入選と賞をいただき、ありがとうございます。（午前中の極端講演を聞いて、つかいマスコミというのは権力に負けるんですね。小さいからこそ支部、分会の機関紙は大きな役割があるのかなど感じました。）



ブロックで交流しながら、東京土建の機関紙活動を引っ張っていただきたいと思います。

表彰後交流会での仲間の声

す。でも一人編集でやっている疲れが来てしまいが、もう少しがんばりたいと思います。

写真のつて
組合活動へ

【江戸川・内装・遠藤喜世志さん】新聞に写真が載った人は組合活動に傾いてくれるんですよ。卑下するわけではないですが、建設職人は小中高と表彰などされない、新聞に写真など載ったことがない人ばかりです。写真で新聞に掲載すると、とても喜んでくれます。個人をクローズアップすると読者もふえます。一月に2人、写真を載せたら年間24人。その人たちは組合運動にひき込まれていきます。